



じぶんで!はくの



よいしょ
うーん



じぶんでできた!

保育者の思い

- ・A 児は普段は、履かせてほしいと甘えるが、この日は「自分で靴を履きたい」と言う姿が見られたので、その気持ちを大切に受け止めたい。
- ・保育者はA 児が靴を左右逆に履いてしまっても、すぐに直すのではなく、A 児が自分で気づくことができるような声かけを意識した。
- ・小さな「できた!」の積み重ねが、子どもの自己肯定感や挑戦する力につながってほしい。
- ・A 児の自分で履こうとする姿に寄り添い、「自分でできた」という嬉しい気持ちや喜びに共感し、前向きな意欲や満足感をより感じられるようにしたい。

エピソード

朝、園庭へ出る準備の時間になり、保育者が「靴を履いてお外に行くよ」と声をかけると、A 児は嬉しそうに靴箱へ向かい、自分の靴を取り出した。そして「自分でくつはくの!」と座り込み、履こうとしたが、左右逆に履いてしまった。保育者がそっと「この足にこっちの靴かもね」と声をかけ、いっしょに確認すると、A 児は「あ、まちがえた」と言って自分で直そうとする姿を見せた。時間はかかったが、最後まで自分の力で履き、満足げな笑顔で「できた!」と立ち上がった。

子どもの育ちや学び

【幼児期において育みたい3つの資質能力】 知識及び技能の基礎 思考力判断力表現力等の基礎 学びに向かう力人間性等

知識及び技能の基礎

- ・毎日の靴を履く動作を通じて、「靴の左右」「足を入れる順序」「マジックテープの締め方」などを覚えている。
- ・保育者の「こっちの足かもね」の声かけを聞き、自分で考え履き直そうとする。

思考力判断力表現力等の基礎

- ・靴が左右逆になり「まちがえた」と自分で気づき、どうしたら正しく履けるかを考えたり試したりしている。
- ・「じぶんでくつ、はくの」「できた!」と、言葉で思いを表現する。

学びに向かう力人間性等

- ・安心出来る先生に見守られながら、自分で最後まで靴を履こうとする。
- ・間違えて履いても、すぐにあきらめず、自分でやり直そうとする。